

「道の駅」と公共性

一道 21 世紀新聞 ルートプレス 読者アンケート結果※から一

NPO 人と道研究会 研究員 神戸大学大学院 松尾隆策 ・ NPO 人と道研究会 蕪木政吉

1. 本研究の課題：「道の駅」の設置・運営には公的資金が投入されている。「道の駅」の公的資金の投入の論拠を経済学の理論を用いて検証する。

「道の駅」は公共性の極めて強い施設である。「道の駅」のもつ公共性とは、

- (1)「道の駅」が公共施設としての機能を有していること：「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域の連携機能」に加えて、「福祉機能」、「医療機能」、「防災機能」等公共施設としての機能を備えていること。「道の駅」は地域住民や他地域からの来訪者との「コミュニケーションの場」という“コモンズ”として、来訪者の案内、地域住民の福祉、防災等に役立つ機能を果たす。
- (2)「地方創生の拠点」として、地域経済の発展をけん引する経済主体であること：「道の駅」が、中山間地域等の条件不利地域をはじめ、地域経済全体を発展させる原動力として機能するためには、地域経済に及ぼすイノベーションが最大限に発揮されなくてはならない。本研究では道の駅の持つ公共性のうち、特に(2)の観点に着目して、経済理論的な根拠を検証する。「道の駅」の正の外部経済は、計り知れないほど大きく、地域におけるイノベーターとして享受する私的利益よりも、地域経済に及ぼす社会的利益の方が、はるかに大きい。地域活性化のイノベーションが最大限に革新的であるためには、正の外部性を内部化すること等の対策が必要となる。「道の駅」が、人々が集う“地域の結節点”として“地方創生の拠点”として、地域経済のけん引役となるために不可欠となるのが公的支援である。公的支援を論拠を検証する。

2. 経済理論の接近：

(1)Marshall の産業集積論と外部経済の理論：マーシャル(1966)は、外部経済が起こりうる典型例として産業集積を取り上げた。Marshall は需要供給に対する価格決定についての理論化を最初に行なった新古典派経済学者をして知られるが、彼の理論には、人間の内面的な幸福・豊かな生活を得るためどうすればよいかという課題に対する挑戦が根底にある。そのために、産業集積論からみた Marshall の外部経済は「外部性の内部化」の意味を持ち、それには「産業の雰囲気」が重要であるとする。地域産業の再生のカギは、独立した経済主体の自律的な結びつきであり、地域活性化の志を持つ地域の企業家や住民の潜在的能力を最大限に発揮する環境が大事である。「道の駅」を中心とした地域における有機的な人と人のつながりこそが、地域産業が再生するガギである。

(2)Schumpeter のイノベーション理論：Schumpeter のいうイノベーションは、「慣行の軌道」を打破する、すなわち既存の秩序を破壊すると同時に新たな価値を創造する社会的プロセスである。その意味で Schumpeter のイノベーションは、「創造的破壊」といわれる。日本経済の停滞が続いている中、各地でこれまでの見方を変えた画期的なアイデアが生まれ、様々な取組が行われるようになった。人々の生活様式や消費者の嗜好が変化している中、Schumpeter のいう「慣行の軌道」を打破し、新たな展開を行うことが、地域活性化方策の原点であるといえる。さらに、人々の嗜好と生活様式の変化に対応するためには、イノベーションが地域に内包するアイデアや資源を改善することの方が、より現実的であるといえよう。イノベーションは、おおよそ簡単に模倣することが出来る。革新的な創意工夫を生み出した企業家の私的利益は、模倣者の利益をも足し合わせた社会的利益よりもはるかに低いので、模倣は「市場の失敗」となる。このような状況下では、イノベーターの革新への動機は縮小することになる。

地域におけるイノベーションが最大限に革新的となり、地域経済が飛躍的に活性化するためには、協同組合のような手法により、外部経済を内部化することが必要となる。そして、外部経済をフリーライドされることを避けるためにブランドの確立も有効な手法といえよう。消費者がイノベーションによる革新的な商品の意味や価値に対する見方を変え、新たな市場が形成されるまでには、長い社会的プロセスが必要となる。これら革新的イノベーションを生み出す環境とするためには、公的支援が重要となる。

3. 分析から見えてきた結論：

産業集積における Marshall のいう「外部性」と「産業の雰囲気」の中で、Schumpeter のイノベーションが革新的に起こることが、現在の日本の地域経済を活性化するための最善の手法であるといえる。イノベーションが最大限に革新的であれば、地域経済がより活性化することにつながる。そのためには、つぎの3点が重要である。すなわち、①道の駅を中心とした経済主体が制度的に協力を体制を確立すること。②道の駅としての外部経済性にフリーライドするものを排除するために、道の駅をブランド化すること。あるいは道の駅の連絡会の組織化をより強固なものとする。③イノベーションの動機付けを最大限にするために、自治体が公的支援を行うこと。である。

4. 分析の背景：道の駅を中心とした地域経済は、地域における活性化を行う産業集積とみなせる。

(1) 国による道の駅の取組

「道の駅」が活力を呼び、雇用を創出し、地域の好循環へ

地域の元気を創る 地域センター型

産業振興「道の駅」

地方特産品のブランド化、6次産業化等

地域福祉「道の駅」

診療所、保健福祉、高齢者住宅等

防災「道の駅」

広域広域の地方支援拠点、防災教育等

(2) 利用者がいただく道の駅のイメージ(ルートプレス読者アンケート※) から見える公共性：

『使わせていただいている』、『利用させてもらっている』、というような表現が多い。民間企業の施設にはこのような表現はない。このような言葉は、「道の駅」は公共的な施設である という利用者さらに国民の共通認識のあらわれであるといえる。※道路利用者の生の声データベース=fresh Voice 「道 21 世紀新聞」に寄せられた道路利用者のご意見・ご要望・ご感想等の投稿ハガキ「生の声」をデータベース化した。現在、51, 827件のデータが収録。

(回答例) ロドライブ好きでマイカーで旅を楽しんで居ります。所々の「道の駅」は本当に心身のオアシスです。今後も精々利用させていただきます。(静岡県・男性・76歳・無職) 口道の駅めぐり(産直)が好きです。いつも感心することはトイレがきれいなこと。ありがたく使わせてもらっています。(岩手県・女性・49歳・主婦) ロドライブ好きで利用させていただいております。注目ポイントは駐車場の大きさとトイレの綺麗さです。いつもありがとうございます。(愛知県・男性・29歳・学生) 口道の駅大好き人間の私ですが…道の駅に触れ合いの文化の証を見出してあります。心から感謝、感謝。ゴミを拾い、使ったトイレをプチクリーニングしながら、利用させていただいております。道の駅ありて生きる楽しみあります。(千葉県・女性・67歳・主婦) 口全国の道の駅を使わせて頂いております。便利なものが出てきて、出かけるのが楽しくなりました。(埼玉県・女性・49歳・主婦) 口道の駅めぐり(産直)が好きです。いつも感心することはトイレがきれいなこと。ありがたく使わせてもらっています。(岩手県・女性・49歳・主婦) ロドライブの途中、かならずお世話になっている道の駅、気持ちよく使わせていただいている裏で、沢山の人の努力のおかげがある事忘れません。(新潟県女性・50歳・主婦) 口道の駅大好き！一番嬉しいのはその土地で採れた新鮮な野菜や果物が買えること、トイレがキレイで使わせていただく度にありがとうございます。(新潟県・女性・64歳・主婦)

読者の自由回答に加えて『道 21 世紀新聞 ルートプレス』で毎月行った 48 回にわたる選択式アンケートでも道の駅の公共性に期待する声が証明された。

地域資源のパッケージ化

温泉や資料館、水辺空間、果樹園、農産物や特産品など、地域固有の観光資源を組み合わせて魅力を向上。

「道の駅」を入口に、地域の魅力にアクセス可能

温泉 水辺空間 観光資源

果樹園 資料館 地域の農産物 特産品を利用した加工品の提供

郷土を愛する経済主体は、地域に役立ち、地域を活性化したいという強い志を持つ。地域は、このような同じ志をもつ経済主体の産業集積とみなせる。国もこのような地域内の主体の連携を道の駅を中心として行うような政策を実施している。

〈参考文献〉 1. シュムペーター『経済発展の理論』塩野谷祐一・中山伊知郎・東畑精一訳、岩波書店、1980年。
 2. マーシャル、『経済学原理Ⅱ』馬場啓之助訳、東洋経済新報社、1966年。
 3. 柴山清彦「外部経済を生み出す場としての自律組織—地域産業再生のための「新たなコミュニティ」の生成—」『日本政策金庫論集』第14号、pp.1-24、2012年。
 4. 柴山清彦「イノベーションの諸相—地域産業にみる最近の特徴—」『日本政策金庫論集』第10号、pp.1-32、2011年。